

膝の水は抜かない方がいい？

長途を歩いたり、重い物を持ってウロウロしたり、なにか膝に負担のかかることをすると膝に水がたまることがあります。特に中高年になり、膝の関節表面の軟骨がすり減ってきますといわゆる変形性膝関節症という状態になります。こうなると膝に少し無理がかかるだけでよく水がたまるようになります。

「膝の水（関節液）は抜かない方がいいのでは」という疑問がありますが、それは間違いです。医師は必要があって関節液を抜くのです。第1の目的は診断のためです。関節液を調べることにより、いろいろなことがわかるのです。関節液は膝関節の中で何が起きているのかを知らせてくれる大切な情報源なのです。第2の目的は治療のためです。いったん水がたまりますと、今までぴったりと合っていた関節の袋が、たまった水によってゆるむため膝は不安定になり痛みが増してきます。歯がよく噛み合わないような不愉快な状態に似ています。また関節の動きが制限され、十分曲げることも十分伸ばすこともできなくなります。関節液が多量にたまったまま放置しておきますと、関節の組織にも有害です。

以上2つの理由から医師が必要と認めるときは、関節液を抜きとることをおすすめするわけです。

平成11年7月
長田 明